

精神科入院患者の 退院支援と地域連携に関する調査

厚生労働科学研究「精神科入院患者の退院支援と地域生活支援のあり方に関する研究」
（研究代表者 医療経済研究機構 沢村香苗）

【ご記入にあたってのお願い】

1. ご記入いただく内容は、貴所の精神科入院患者の退院支援と地域生活支援の支援体制や実施件数、支援における連携の状況等に関するものです。本調査では、主に、長期在院（1年以上）の方に対する支援についておうかがいしています。
2. アンケートは、記入日時点あるいは設問で指定した期間の状況についてご記入ください。
3. ご回答は、該当する選択肢の番号に○をつけるか、回答欄に選択肢番号あるいは数値・文字をご記入ください。
4. ご回答いただきました内容につきまして、本調査の目的以外に使用することはありません。また、すべて統計的に処理し、個別の情報として取り扱うことはありません。
5. 調査票は、同封の返信用封筒に入れ、平成21年2月20日（金）までにポストにご投函いただきますようお願いいたします。
6. ご不明な点がございましたら、下記まで、お問い合わせください。

■お問い合わせ先■

〒105-0003 港区西新橋1-5-11

財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構

担当：中西

電話：0120-568-535（フリーダイヤル） FAX：03-3506-8528

（誠に、勝手ではございますが、お電話は、月曜日～金曜日 10時～17時にお願いたします）

ご回答者様のお名前とご連絡先をご記入ください。

お名前		部署・役職	
電話番号		ファクス番号	
保健所名			

次の想定事例 A・B の退院を検討する場合についてご回答ください。

【想定事例 A】高齢で入院期間が長く、生活障害が強い例

Aさん、男性、65歳。20代後半に幻覚、妄想状態を呈し統合失調症と診断された。複数の病院を転々としながらほとんどの期間を入院して過ごす。

家族は同胞のみで同居不可、退院について積極的な協力は難しいがある程度の金銭的援助は可能とのこと。

入院生活の中では、作業療法に週3回ほど通うことになっているが休みが多く臥床がち。掃除や金銭管理は一人で行うことが難しく、病棟では看護師が関わって一緒に行っている。

医師の精査によって緊急に対応が必要な合併症はなし。しかし本人は「体が心配だから」など不安が大きく退院について消極的。服薬について受け入れており、怠薬・断薬についてはそれほど心配はない。

問1 貴所においてAさんの退院を支援するか否か、支援する場合の想定される退院先

1. 退院支援の対象になる	→想定される退院先(複数可)	
	1. 自宅(家族同居)	2. アパート等賃貸
	3. グループホーム	4. 援護寮
	5. 救護施設	6. その他()
		→問2へお進みください
2. 退院支援の対象にならない	→対象とならない理由(複数可)	
	1. 症状が十分改善していない	2. 居住面の受け皿がない
	3. 生活支援の受け皿がない	4. その他()
		→事例Bへお進みください

問2 退院支援のそれぞれの活動に参加する機関の番号をご記入下さい(複数可)。その中で、最も中心になると考えられる機関にひとつ◎をつけて下さい。

- | | | |
|---------------------|-----------------|---------------|
| 1. 訪問看護(病院付属) | 2. 訪問看護(地域の事業所) | 3. 地域活動支援センター |
| 4. 保健所 | 5. 地域の専門チーム | 6. 病院 |
| 7. 援護寮・グループホーム等入所施設 | 8. ホームヘルプ | 9. 市区町村担当窓口 |

入院中	退院計画の作成・進捗管理		
	公的制度の申請援助		
	居住先の確保		
退院後	服薬管理援助		栄養管理援助
	疾患管理(精神疾患)援助		緊急時対応
	疾患管理(身体疾患)援助		生活上の不安・相談対応
	金銭管理援助		家族支援

【想定事例 B】入退院を繰り返し、退院後の服薬管理が課題となる例

Bさん、男性、37歳。18歳時、大学受験の失敗を気に幻聴を呈し、近所の公園で興奮状態となり、C病院に措置入院となった。その後現在までC病院に半年～2年ほどの期間の入院を5回繰り返す。家族は両親と妹。これまでの入院はすべて怠業によるもので、度重なる入院に家族は疲弊しており、退院に対して非常に強く反対し、今後は同居不可。

入院生活では週5回の作業療法にきちんと通えており、病棟内のレクなどにも積極的に参加している。本人は「仕事がしたい」と延べ、退院を希望。服薬について現在は受け入れている様子を見せるが、時々「本当は薬をやめたい」と漏らすこともあり、退院後も継続的に服薬支援が必要と思われる。

問3 貴所においてBさんの退院を支援するか否か、支援する場合の想定される退院先

1. 退院支援の対象になる	→想定される退院先(複数可)	2. アパート等賃貸
	1. 自宅(家族同居)	4. 援護寮
	3. グループホーム	6. その他()
	5. 救護施設	→問2へお進みください
2. 退院支援の対象にならない	→対象とならない理由(複数可)	2. 居住面の受け皿居住面がない
	1. 症状が十分改善していない	4. その他()
	3. 生活支援の受け皿がない	→事例Bへお進みください

問4 退院支援のそれぞれの活動に参加する機関に○をつけて下さい(複数可)。その中で、最も中心になると考えられる機関にひとつ◎をつけて下さい。

□想定事例Aと同様である→□に✓を入れて問5にお進み下さい。

- | | | |
|---------------------|-----------------|---------------|
| 1. 訪問看護(病院付属) | 2. 訪問看護(地域の事業所) | 3. 地域活動支援センター |
| 4. 保健所 | 5. 地域の専門チーム | 6. 病院 |
| 7. 援護寮・グループホーム等入所施設 | 8. ホームヘルプ | 9. 市区町村担当窓口 |

入院中	退院計画の作成・進捗管理		
	公的制度の申請援助		
	居住先の確保		
退院後	服薬管理援助		栄養管理援助
	疾患管理(精神疾患)援助		緊急時対応
	疾患管理(身体疾患)援助		生活上の不安・相談対応
	金銭管理援助		家族支援

貴所の状況についてお伺いいたします。

問5 カバーする地域の人口（平成19年度）

	名
--	---

問6 精神保健サービスの利用者の状況（平成19年度1年間）

サービスの区分	延べ人数
精神障害者生活支援事業（デイケア）	名
社会復帰施設等の斡旋・利用	名
居宅生活支援サービスの実施	名
交通費・住居費用の助成	名
医療費の助成	名
精神保健福祉相談	名
家族のための相談	名
精神保健に関する講演	名
合 計	名

貴所と地域におけるその他資源の関連についてお伺いいたします。

問7 精神障害をもつ利用者の紹介をよく行う病院・診療所、地域サービス

地域資源	カ所数	主な紹介の形態（あてはまるものに○）		
		相互に 紹介し合う	主に 紹介される	主に 紹介する
病院（精神科領域）	カ所	相互に 紹介し合う	主に 紹介される	主に 紹介する
病院（精神科以外の領域）	カ所	相互に 紹介し合う	主に 紹介される	主に 紹介する
診療所（精神科領域）	カ所	相互に 紹介し合う	主に 紹介される	主に 紹介する
診療所（精神科以外の領域）	カ所	相互に 紹介し合う	主に 紹介される	主に 紹介する
地域サービス（精神科領域）	カ所	相互に 紹介し合う	主に 紹介される	主に 紹介する
地域サービス（精神科以外の領域）	カ所	相互に 紹介し合う	主に 紹介される	主に 紹介する

貴所の他機関との連携状況をお伺いいたします。

問 8 同一市区町村または同一障害者福祉保健圏域内に、精神科医療に関わる多機関のチームやネットワークはありますか。ある場合、その目的についてご回答下さい。複数の組織がある場合、それら全ての目的についてご回答下さい。

同業種とのネットワーク

1. チームやネットワークはない	5. 個別事例の支援分担
2. 勉強会や一般的な情報交換	6. 精神科医療に関する体制整備協議
3. 定期的なイベントの開催	7. 地域資源やニーズの把握
4. 個別事例の情報共有	
このような会に出席する頻度	(_____ 回/月)

他業種とのネットワーク

1. チームやネットワークはない	5. 個別事例の支援分担
2. 勉強会や一般的な情報交換	6. 精神科医療に関する体制整備協議
3. 定期的なイベントの開催	7. 地域資源やニーズの把握
4. 個別事例の情報共有	8. 自立支援協議会
このような会に出席する頻度	(_____ 回/月)

問 9 自立支援法施行前と比べた他機関との連絡頻度

1. 減った	2. 変わらない	3. 増えた
--------	----------	--------

問 10 退院促進支援事業・精神障害者地域移行支援特別対策事業への参加

1. 参加している	2. 参加していない
-----------	------------

問 11 ピアサポートの活用

	実施の有無	活動の形態
当事者による退院支援活動	1. 行っている 2. 行っていない	1. 貴所の事業として実施 2. 地域の自主的事業として実施 3. 退院促進支援事業として実施

その他のことについてお伺いいたします。

問 12 貴所、および貴所のある地域における精神科入院患者への退院支援や地域生活支援の特徴について、お考えをご記入ください。

問 13 今後、連携体制が発展するためにはどのようなことが必要でしょうか。主導主体や活動の内容、連携の契機となることなど、お考えをご記入ください。

精神科入院患者の退院支援と
地域生活支援のあり方に関する研究
平成19年度－平成20年度総合研究報告書
平成20年度総括・分担報告書

平成21年3月

発行：財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会
医療経済研究機構

〒105-0003 東京都港区西新橋1-5-11
第11 東洋海事ビル
TEL：03(3506)8529
FAX：03(3506)8528

本報告書の全部又は一部を問わず、無断引用、転載を禁じます。

PJ No. 08307